

他大学図書館紹介

今号から、学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアムに加盟する図書館を紹介いたします。

東北女子大学

大学附属図書館と学生そして生徒を結ぶために

東北女子大学図書館長 佐々木 隆

東北女子大学は、家政学部が家政学科と児童学科からなる学校です。現在、図書館では管理栄養士コースの増設のための図書を多く購入しています。児童学科のために小学校教育や幼児教育の本があり絵本も揃えています。絵本は学生の心を癒しているようです。最近は家政と児童の中間の食育の図書も入ってきています。どちらの学科の学生にも、就職のためだけではなく、自分自身の健

康のためにも読むように勧めています。

図書館の中で本を紹介するだけではなく、館内に入ってこない学生のために、学内の掲示板に本を紹介しています。新購入の本だけではなく、読んでもらいたい関連の本の表紙をカラーコピーし、内容が少しでも分かるように目次などもコピーして貼り付けています。



初年度教育のために表紙を館外に掲示

学生の中には本自体に興味を示さない者もいるようです。特にネット時代となり、さらにスマホが普及して、情報が自由に入るようになり、本を読まなくてもよいと思い、図書館へ来ないようです。これは大学の図書館だけではなく高校と大学の教育の全体の中で克服してゆかなければならない課題です。

アメリカの大学では、4年間に480冊の専門書を読ませると言われます。日本の大学でも東大など新入生に読んでもらいたい本の紹介している所もありますが、先生の思い出の本の紹介や科目を受講するならこれぐらいは読んでほしいと言うもので、4年間の読書計画の見通しではありません。

つまり、入門書から専門書までの知識を積み重ねてゆく階段を作らなければ、学生が勉学で挫折するのは目に見えています。そこで、私はまず本を読む気になるように『心の扉を開いて』という読書を勧める小冊子を書き、3版まで改訂し学生や高校を含めた学校関係者に配布しました。陸奥新報で紹介して頂き、図書館の集まりでも各大学の司書や先生方にお渡ししたのでご存知かと思います。それがどこをどう伝わったのか香港の日本人学校（高校）の先生が初版をお読みにになり、東北女子大学まで話を聞きに来てくださいました。ジェンダー学の天野正子先生（東京家政学院大学学長）にも評価して頂きました。このことは多く

の人が生徒や学生を成長させるために、本を読んでもらおうと努力され、そのための読書指導の難しさを痛感し、悩んでおられるということです。現在、初年度教育及び入学前指導の副読本にでき

るように、小冊子の題名を変えて本にする増補改訂作業をしています。弘前大学附属図書館出版会から出していただける予定です。

(ささき たかし)



幼児教育の目的ですが癒しのためにも



寛ぐため、床やテーブルの色など工夫

開館時間 月～金 9:00～16:30
土 9:00～13:00

利用に関しては、図書館長が発行する依頼状が必要（メインカウンターに問い合わせ願います）

Library News

日本医学図書館協会総会に参加して

平成 25 年 5 月 23 日(木)～24 日(金)に、日本科学未来館を会場として開催されました。日本医学図書館協会は、1927 年(昭和 2 年)に創立した「官立医科大学附属図書館協会」に端をすする協会で、国公立の医・歯・健康・生命科学領域の専門図書館が加盟し、活発な活動をおこなっています。

初日は、平成 25 年度の事業計画案や予算案が審議され、事業計画案について、認定資格制度、国立ライフサイエンス情報センターの設置などの説明がありました。

2 日目は、以下、4 つの分科会が開催され、分科会 A と分科会 C 2 に参加しました。

1. 分科会 A 「診療ガイドラインの最新動向と作成支援」
2. 分科会 B 「患者さんへの医療・健康情報の提供」
3. 分科会 C 1 「研修手段としての e-Learning 導入の可能性を検証する」
4. 分科会 C 2 「医療関連学部生のための教育学習支援」

分科会 A では、診療ガイドラインの作成者(医師)と支援者(図書館員)から診療ガイドライン作成までの手順や医学図書館協会が作成支援した経緯など話題提供がありました。分科会 C では、日本及び韓国での学習環境の提供や図書館による情報リテラシー教育などについて話題提供がありました。

どちらの分科会も話題提供後、活発な議論が展開され、有意義な分科会となりました。

(医学情報グループ係長 佐々木忠)